

経営と健康



日本史を彩った女性たち 第六回

「福祉、更生保護に尽力した女性たち」

講談師 一龍齋貞花

東京新宿のトウー横でも知られる通り小学生まで補導され、若い女性の立ち直りのため更生に務める女性もあります。福祉や更生保護に尽力した歴史上の女性を紹介します。

悲田院を創設した光明皇后

藤原不比等の娘安宿媛、光り輝くばかりに美しいところから光明子といわれ、皇太子（後の聖武天皇）と、共に18歳の時結ばれ後の孝謙・称徳天皇誕生。聖武天皇として即位、待望の男子出生も満一歳の誕生日を前に急死、安宿媛が正式に皇后になりここに初めて臣下より皇后が生まれ、光明皇后と呼ばれます。行ったのが施薬院、悲田院（貧しく孤独な人々を養う）を設置。仏のお告げにより東大寺内に浴室を作り、

千人の垢を落とすという誓いを立て、乞食や病人の垢を洗っていたが、千人目に見るからにひどい癩病を患っている身体中うみだらけの男が、「口でうみを吸い出してくれ」意を決してうみを吸い出してやるや途端、まばゆいばかりに光り輝き「私は阿闍仏である」と名乗ったという伝説も。皇后は喜びその場所に阿闍寺を建てたと伝えられる。

聖武天皇七回忌に、天皇遺愛の品々と21の櫃に入った60種類の薬を東大寺へ献納したことが正倉院の記録に残されている。聖武天皇が癩を患っていたので後の人が器など使用しないよう倉にしまいこんだという説もある。晩年の光明皇后は東大寺大仏を完成させ、一切経の写経発願、法華寺に阿弥陀淨土院造営にかけ、完成半ば60歳の生涯を終え聖武天皇の眠る佐保山陵に葬

られた。福祉と仏教に尽した皇后。（秋田書店「日本史女性100選」参考）

世界最古の国際人道基金 昭憲皇太后

一条忠香の三女として誕生、明治天皇の皇后となり日本赤十字社の設立と経営に尽力され、赤十字国際委員会に寄付された「昭憲皇太后基金」は、赤十字平時における救援活動の先例となり今も世界各国の赤十字助成のために活用され、その恩恵に浴した国170

に及び世界最古の国際人道基金とされる。日本が近代化する中、宮中改革、養蚕奨励、女子教育の振興、福祉や医療推進に尽力、福田会育児院、岡山孤児院など養護事業にも心を寄せ、和歌の名手で我が国最初の東京女子師範学

校（お茶の水女子大）の校歌を作詞されています。（明治神宮誌参考）

日本のナイチンゲール瓜生岩子

戊辰戦争時、敵味方の区別なく怪我人の手当や死者を埋葬、献身的な働きをした日本のナイチンゲールといわれる会津の瓜生岩子

「世の中というものはお互い助け合っていくものです。困っている人がなくなる世の中、それが平和で幸せな世の中なんです」と孤児の世話をし養育所開設。福島県令三島通庸夫人。土方久光、樺山資紀らの夫人、大山巖夫人捨松は日本ではじめて女子留学生としてアメリカへ行き外国の社会を知っており社会事業に理解があり先頭にたつて協力。明治21年会津磐梯山大爆発の時に

は岩子は寝食忘れて救護活動。「国民に救済事業に目を向けさせるために婦女慈善記章の制度を設けて頂きたい」と、第一回帝国議会に請願、残念ながら採用されなかったが国会に請願した日本女性第一号と記録されている。「東京養育院の子どもの世話をさせて頂きたい」と渋沢栄一の依頼を受けて幼い子の世話係長に。会津に帰るや貧困者を無料治療する私立済生病院や孤児を收容する育児会開設。濃尾地震が起きるや救済のためのバザーを開催し収益を贈ります。日清戦争勃発するや親しくしている東京貴夫人会に寄付や協力を求め慰問袋を作つて前線に送る。出征兵士の家族に水飴の作り方を教え資金を出して東京に30軒の水飴店を開かせると、皇后さまから参内の栄に浴しその時頂いた着物まで売って資金作り。浅草観音様の境内に和服姿でほほんでいる小柄のおばあちゃんが座っています。女性の銅像日本第一号。

会津の山の中で生れた末亡人が、社会のため福祉事業に一生を捧げた岩子。板垣退助夫人は、子どものいる女囚のための東京女囚携帯乳児保育会を設立し、女囚の7歳までの子どもを預かる活動。

日本更生保護女性会

先覚者池上雪絵

明治維新による社会の混乱、貧困、家庭の崩壊などで精神は乱れ非行や犯罪の元になつていると考え、過ちを犯した若者の救済と再教育を考え、60歳近い明治16年大阪北区の自宅に日本最初の池上感化院開設。收容者も増え手狭になり移転し、授産所（女子の失業者、貧困者に内職の仕事を与える）開設。感化院の児童は生徒と呼ばれ35〜36人一人ひとりの性格と適性を判断し、各自に適した教育、技術を与える。娘婿が英語を教え、陸軍技師としてイギリスに派遣されて活躍し勲四等受章した者、事業に成功し多額納税者となつた者など多くの生徒が更生し社会復帰。しかし設立からわずか3年で経営難となり、銀行からの融資も受けられず閉鎖状態に。侠客小林左兵衛が雪絵に触発されて小林授産所を開設し池上感化院の少年を引き取りました。

その後雪絵の存在が忘れられていたが、「感化事業の母」として大阪朝日新聞に掲載され、不良少年救済事業の先覚者として改めて雪絵の存在が知られる

るようになり、更生保護のための女性会の先覚者となりました。

元保護司（定年退任）として講演で池上雪絵を紹介しています。

慈悲の心あふれるお竹

江戸日本橋の旅籠の下女お竹。洗いをすれば飯粒が桶の底に残る。袋をこしらえてその袋の中へあつた水を流し込むと飯粒が残る。それに火を通して自分の三度の食事は洗い流しやお客の残り物ですませ、なお余つた物は取っておいて乞食が来るとそれをやって喜ぶ顔を見て自分も喜ぶ。乞食たちに枯木、枯枝木切れを拾わせ代金をきちんと支払つてやりそれで風呂を沸かすなどのリサイクル。主人が息子の嫁にするや慈悲深い女性、奉公人はもとより泊り客にも余計なお金を使わせないよう親切にもてなす。客の評判もよく宿屋は繁盛、困っている人がいれば相談にのり援助もする。

お竹が臨終の時使っていた台所の流し板がパーと光を放つて、「我は大日如来なり」と言われたとか。今もこの流し板が芝増上寺の塔頭心光院に伝えられ、お墓のある東京北区の善徳寺で毎年命日の5月19日慰霊祭が行われている。以前教科書に載り人を助ける手本と紹介されたが今は掲載されていない。

慈悲と勿体ない精神、リサイクルのお手本のお竹さん。

それ以来いい下女をおくと、お竹のようだといつてほめる。また本名があるのにあやかるようにと「お竹」と呼ぶようになりました。漫画の吹き出しに「お竹さん、お早よう」これもこのお竹さんからといわれます。

今も更生保護女性会は、保護施設で励ましたり、立ち直りのための環境作り。保護施設の入寮者が家庭的な雰囲気でも早く復帰出来るよう手助けをする。出所時の衣類提供、刑務所、少年院への訪問活動など、再犯防止にも大きな効果があり素晴らしいボランティアがなされている女性会です。保護司も多くの女性が活動しています。

ナイチンゲールやお竹など人を思いやる精神からも教科書に是非復活させてほしいものです。

物が豊かになればなるほど心の豊かさが失われております今日、物の援助は出来なくても、暖かさを分かち合うそんな心をもちたいものでございます。